

建設業で活躍する若手技術者

大山組(川崎市中原区)



「東京近郊で働いてみたい」との思いが募り、生まれ育った厚城

保坂 裕貴さん

厚城出身。2015年5月に大山組に入社した。それまでの仕事や専門学校での専攻とは全く関わりがなかったが、「インターネットで応募を見て面白かった」と建設業の門をたたいた。

入社後は川崎市立小学校の現場を担当し、立ち上げから16年11月末の完成まで携わった。初めての業界、初めての現場で最初は戸

信頼される現場監督に

現場監督になりたいです」と将来を見据える。

惑ったが、工事が終わるころには「できる職人さんには大事な仕事を任せ、できない人はおだててできることをやらせてもらいます。そしてなにごと自分に回ってきでしまうので」と、すでに大きな戦力となっている。

大山組は近年、若手技術者を積極的に採用し、20歳代が6人所属する。月に一度の研修会で集まり、現場の課題を発表し合い、終了後は懇親会で親睦を深める。若者の悩みに答え、切磋琢磨(せつさく)せざるを得ない貴重な機会となり、「何でも話せる同世代がいて心強いです」と話す。

技術者の心得として、先輩からは「顧客、業者、職人とへのコミュニケーションを取るように」と口酸っぱく言われる。ふと飛び込んだ建設業界だが、「入って良かったと思います。皆さんに信頼される